

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中尾 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

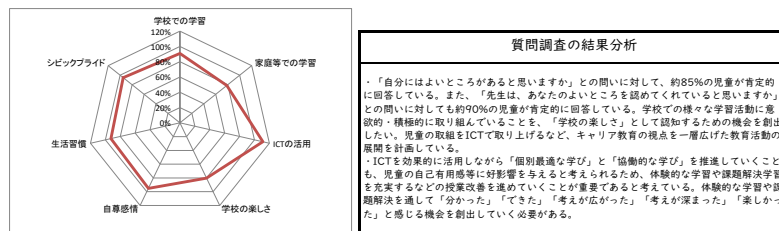
- 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的な傾向としては、全国・本市と同程度の結果であった。登場人物の相互関係や心情などの読み取りは正答率が高かった。得られた情報を分類し、伝えたいことを明確化することが課題として挙げられる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「知識技能：情報の扱い方に関する事項」（出題例：様々な情報の関連付けや図と語句の関連付け）	下回っている
	努力が必要な問題	「思考判断表現：書くこと」（出題例：集めた材料を分類し、伝えたいことを明確化すること）	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的な傾向としては、全国・本市と同程度の結果であった。図形の領域では、立方体に関する正答率が高かった。図形領域の円、変化と関係に関する内容については誤答が見られ、課題ととらえている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「数と計算」・「図形」（出題例：□を使った立式と計算・直方体の見取り図）	下回っている
	努力が必要な問題	「変化と関係」・「データ活用」（出題例：時間と歩く速さの関係や比較・グラフの読み取りと記述）	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- 教科に関する取組

○授業でPCやタブレットなどのICT機器を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを展開していく。

○各教科において、教科横断的な視点をもちながら、体験的あるいは課題解決学習の機会を取り入れた授業改善を行っていく。

○話し合う活動や伝え合う活動の量を増やして、活動を充実させ、自分の考えを広げたり深めたりする。

○基礎的・基本的な学力の定着と家庭学習の習慣化に取り組む。

- 家庭生活習慣等に関する取組

○質問紙調査の結果から、家庭での学習時間が少ないことが分かった。ICT機器を活用した学習を推進し、家庭学習の幅を広げる。

○自主学習の取り組み方に関する指導を行い、自分の興味関心や苦手とすることから自己の課題を設定し、解決に向けた学習方法を身に付けさせる。

○携帯電話の使用時間や頻度などに関する指導を家庭と連携して行い、ゲームやSNSの取り扱いに関する規範意識の高揚を意図した学習機会を設ける。

○自分をとり巻く周囲の方々から見聞を広げる機会を設け、キャリア教育の視点をもちた指導を展開していく。